

- 1 流量を減少させないための環境保全措置等
- 2 調査方法(地点、手法、頻度、期間)
- 3 流量減少を判断する基準、報告/公表の時期
- 4 流量減少が生じた場合に行う環境保全措置等の妥当性

1 流量を減少させないための環境保全措置等

(1) 2m³/s減予測の妥当性

水収支解析に用いた河川流量データ等の提出及び説明

(2) 2m³/s減とした場合の対策

本坑	地質が良い ところ	吹付コンクリート ロックボルト 覆工コンクリート
	地質が悪い ところ	吹付コンクリート量増 ロックボルトの本数増 覆工コンクリートの厚み・強度増 鋼製支保工 インバート 薬液注入
非常口	防水工や覆工コンクリートは必要に応じて設置	
先進坑	(記載なし)	

2 調査方法(地点、手法、頻度、期間)

	時期	地点	頻度	期間
地下水	着手前	既存井戸2箇所	月1回 →週1回	トンネル工事前1年間→直ちに3年間
	工事中	→坑口付近及び影響のある範囲の観測井3箇所	4季	工事中
	供用後			トンネル完了後3年間→恒久的状態になるまで
河川流量	着手前	予測7地点 畑薙第一ダム	月1回 →毎日1時間ごと	トンネル工事前1年間→直ちに3年間
	工事中			工事中
	供用後		4季	トンネル完了後3年間→恒久的状態になるまで

手法:「地下水調査および観測指針(案)」(平成5年 建設省河川局)に準拠

※→は知事意見又は委員意見

3 流量減少を判断する基準、報告/公表の時期

河川流量の減少の有無を判断するために必要な要素

- ①降雨状況、地下水位、河川流量の確認
- ②渇水年、豊水年の傾向との比較
- ③渇水期、豊水期の傾向との比較

な減少

定期的に

- HP等で公表
- 河川管理者、関係機関、県へ報告

あり減少

直ちに

- 公表
- 河川管理者、関係機関、県へ報告

恒久
対策

環境保全措置の実施
代替水源の確保 等
補償？

影響出た
場合

環境保全措置の実施
代替水源の確保 等

- 工事開始前から鉄道施設完成後、恒常的な状態になる時期までの期間
- 終了時期は、関係機関と協議し、公表

4 流量減少が生じた場合に行う環境保全措置等の妥当性

環境保全措置等	具体的方法	課題等
代替水源の確保		・想定している水源、 流量等の説明
トンネル湧水をポンプアップして河川へ戻す		・汲上げない場合、湧水はどこに行くのかの説明 ・完成後のトンネル湧水は減少、山梨・長野側に流れる水を汲上げる方法